

報告② ～おかし屋ぱれっと 新所長挨拶～

2007年5月、焼き菓子の甘い香りただよう店内。そしてガラス越しから見える作業場で黙々と働く人たちの姿。初めておかし屋ぱれっとを訪れた時の情景が今でも昨日のこのように思い出されます。

前職でパソコンのインストラクターをしていた私は、教室に通う障がいのある方たちとの出会いを通し、彼らの就労への苦悩や困難さを痛感しました。そして、彼らとの関わりが深まるにつれ、人ごとではないという感情と「障がいのある方が働く現場で直接関われる仕事がしたい」という強い思いに転職を決意しました。

福祉だけでなく、菓子作りの知識や経験がない私にとっては、全てが一からのスタートでした。覚えることや仕事量は想像以上に多く感じましたが、ぱれっとで学ぶこと、経験すること、出会うたくさんの方々、全てがとても新鮮でした。

あれから9年、本当にあっという間に月日が経ちました。時にはぶつかり合い、時には励まし合い、そして、笑って、涙して。そんな毎日を送りながら通所員とも人間関係を築き、お互いに本気で向き合いながら共に前に向かって進んできました。そして、おかし屋ぱれっともまた、時代の流れやお客様のニーズに対応しながら新商品を開発し、販売場所も増やすことができました。充実した多忙な毎日を送ることができるのは、おかし屋ぱれっとを支えて下さるたくさんの方々のご協力のおかげであると心から感謝しております。

今年度おかし屋ぱれっとは、第二工房が“工房ぱれっと”と名称が変わり、2名の通所員と1名の職員が新しく加わりました。そして、今後は気持ちを新たに、通所員、スタッフが一丸となって仕事に励み、今まで以上に明るく、活気のある職場を目指していきます。また、前相馬所長が創り上げてこられた“おかし屋ぱれっとらしさ”をしっかりと引き継ぎながら、さらに新しい色を加えていきたいという思いであります。まだまだ至らないこともたくさんありますが、相馬理事長ご指導のもと一生懸命に頑張っておりますので、皆様今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。 （おかし屋ぱれっと所長 長澤美佳）